

群馬県立中央中等教育学校学校評価一覧表②（令和4年度版）

（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1豊かな人間性、想像力を育成する教育活動を行っていますか。	①自ら積極的にあいさつをしていると自己評価している生徒が90%以上である。	B	B	B	「全ての基本は挨拶から」朝の挨拶運動を含め、職員自らの声かけ等、積極的に進めていっている。	他者のため、社会のために、マイリテューの視点も忘れずに考え行動できる姿勢を身に付けることができれば、中央中等教育学校が目指す「World Citizen(地球市民)」にふさわしい視点を持った生徒を育成できるのではないかと考えている。そのためには挨拶や清掃活動等の日常生活における何気ないことに積極的に取り組める、そんな奉仕的な精神を持った人であってほしいと思う。同窓会等の協力を得て、卒業生のその後についても検証できるとよいのではないかと。	・「全ての基本は挨拶から」「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ意味を理解し、より多くの声かけを行なっていく。 ・破損した清掃用具の交換や、不足している清掃用具の補充をするなど、清掃環境を整えたい。 ・生活(学習)環境の整備推進と同時に本校生徒(現役生・卒業生)の頑張りと、善行を積極的に紹介をして母校に誇りを持っていくように努めていく。
		②意欲的に清掃活動に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	A	B	A	破損した清掃用具の交換や、不足している清掃用具のチェックを行い、清掃環境を整え、清掃への意識を高めている。		
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	A	A	A	全学年実施している朝の奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、生徒が自身の可能性を広げることができる環境をつくっていく。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4基礎・基本の確実な理解を図る指導を徹底していますか。	④英語や外国文化に興味を持っている生徒が90%以上である。	A	A	A	各習得段階において、ICTを活用して指導場面に応じた多様な教材を使用しつつ、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、英語ニュースを聞いたりや英字新聞を読む活動等を行うことを通じて、英語・外国文化・世界情勢について、興味関心が深まっている。	FEWCプログラムの課題研究発表会を参観させてもらったが、1年生と2年生の発表とは思えないくらいしっかりとした発表だったと思う。自己の興味関心のある事柄についてしっかりとした研究を行い、論理的に自分の意見を組み立ててプレゼンをするという経験を繰り返してきているのは、とても有意義なプログラムであり、是非とも継続していただきたい。	・真の意味での国際コミュニケーション能力の育成に向けて、実際の場面で即興的かつ創造的に表現出来る能力、グローバルスタンダードにかなう論理構成力、プレゼン能力、意思伝達力等の育成に、前期・後期を通して一貫して取り組んでいかなければならない。また、ICTの活用・探究的な学習を重視した新しい指導の方向性や、年々高まる英語外部試験のニーズに対応するため、各発達段階ごとの具体的な目標や指導方法を検討していく。
		⑤イングリッシュキャンプやスピーチコンテストなどの英語科行事や、海外研修旅行に満足している生徒が85%以上である。	A	A	A	前期・後期を通じ英語関連の行事と関連づけた授業の中で、4技能に加えて発表能力を向上させる活動をより多く行い、自らの考えを伝え合う力を養うことで、各行事に対する意欲をさらに高めることが重要である。		
		⑥全ての生徒が、学校行事や授業等で我が国や世界の国々の文化・伝統に触れる経験をしている。	A	A	A	コロナ禍を考慮して例年より遅めの11月実施を計画したが、感染が再拡大した時期と重なったため、対象を1～5年生に変更し、無事に実施することができた。シェークスピアの「真夏の夜の夢」を鑑賞したが、世界の文化に目を向けるという点からも、生徒、職員ともに好評であった。上演内容等について今後もしっかりとした検討が必要である。		
III 生徒の主体的な学習活動について適切な指導をしていますか。	6教師は主体的に授業改善に努めていますか。	⑦授業内容を理解できていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	「問いの立て方」をテーマに外部講師を招き、全職員対象の研修を実施する等、本年度もICTを活用、協働学習を念頭においた研修がプログラム通り実施された。コロナ禍であることを考慮し、外部への対面の公開は見送ったが、年2回の公開授業研究(2週間)は、職員同士の授業スキルの向上に大いに役立ったと思われる。今後もアクティブラーニングの知見にさらに工夫を加えた授業の実践を職員全体で共有することで、基礎・基本をおさながら、生徒一人一人の理解を高める授業を実践していきたい。	授業アンケートをルーブリックをもとにした形に変更し、カリキュラムマップの見直しに活用している点は評価できる。この形の授業アンケートならば、生徒一人一人が自分の身に付いたスキル・能力がどういうものなのかを見直すこともでき、日頃の学習活動にもフィードバックがしやすいと思われる。1時間1時間の授業に対する満足度、理解度をあげる取組を今後も続けてほしいと感じた。	・学校の教育活動の根幹が日々の授業にある点を再認識し、アクティブラーニング、一人一台のコンピュータ端末の活用方法等の情報を校内研修を通して職員全体で共有し、組織的な取り組みを推進する。また、新型コロナウイルスの5類への引き下げを受け、公開授業研究を対面で実施し、本校の教育活動を外部に対して積極的に発信する。加えて、授業アンケートをもとにした継続的なカリキュラムマップの改善を行い、生徒の基礎・基本の定着と課題発見、課題解決能力の向上を目指すことが授業を実施する。
		⑧少人数指導に満足している生徒が85%以上である。	A	A	A	授業の形骸化を防ぐために、少人数指導の長所の確認を一步進め、少人数指導でしかできない授業について再検討を行った。常に授業の形態を進化させることで、生徒の充実感を高め、課題発見、課題解決能力の伸長を心がけた。		
		⑨学習動機が明確な生徒が85%以上である。	B	A	A	二者面談、三者面談を通じて、生徒一人一人に対して適切な助言をすることができた。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9各学年の特性に応じた計画的な進路指導を行っていますか。	⑩家庭学習の習慣が身に付いている生徒が80%以上である。	B	A	A	一人一台パソコンおよび学習アプリケーションを配布し、生徒の家庭学習を支援することができた。	コロナ禍においても、先生方が「FEWCプログラム」のよりよい実践のために積極的に研修・授業研究に取り組んでいることが、明石プロクラム(模擬国連、英語ディベートの活動)の充実、子どもたちの批判的思考力、協働的課題解決力等の向上につながっているのだからと思う。来年度は定例化した公開授業を対面で、来校者の前で実施することで、効果的な外部への発信になるのではないだろうか。	一人一台パソコンをさらに有効利用すべく、教員側のスキルアップをはかりたい。 ・学校と家庭との連絡ツールを活用することによって、生徒の家庭学習をいっそう充実させたい。
		⑪すべての教師が、「探究的で創造的な学習」、「指導と評価の一体化」、「ICTの活用」等のテーマを設定し、授業改善に取り組んでいる。	A	A	A	年2回の外部講師を招いての職員研修を通じて、ICTを活用した探究的で創造的な学習を導入した授業に関する最新の情報を提供するとともに、FEWC人材育成ルーブリックに基づく授業評価アンケートを実施し、授業改善に向けての支援を行った。		
		⑫すべての教師が研究授業を行い、授業参観を年2回以上実施している。	A	A	A	計4回の公開研究授業を実施することにより、一人一台パソコンの導入後の探究的で創造的な学習を中心とする授業改善について、教員同士の学び合いによる充実した研修会を行うことができた。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11積極的な情報発信に努めていますか。	⑬教師との信頼関係を築けていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	全職員で生徒情報を共有して、それぞれの生徒に適切なタイミングで指導、支援を行なっている。	子どもは一人一人違うのが当たり前という前提で指導に取り組んでいることが評価できる。LGBTの生徒への配慮として女子の制服にズボンを導入したことに加えて、生徒会本部役員と生徒指導担当の職員で校則の見直し、改定に取り組んでいる点も評価できる。	・保健委員会の研究テーマや保健便り等で、健康を意識できるような内容を伝えていきたい。 ・特別活動の意義を学校生活全般にわたって生徒が実感できるよう、外部関係機関とも連携した手立てを考えていきたい。
		⑭クラスの人間関係が良好だと感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	人の数だけ価値観があることや他者を認めてあげることの重要性を伝えている。		
		⑮自分の健康について意識している生徒が80%以上である。	B	A	A	コロナ対策のための検温やアルコール消毒が習慣化し、自らの健康を意識する機会が増えた。		
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	13ICTを活用した授業等を実践していますか。	⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。	A	A	A	コロナ禍で活動が制限される状況ではあるが、部活動や委員会活動に取組む意欲・姿勢は良好である。部活動においても委員会活動においてもより生徒が主体となって活躍する場面を増やしていきたい。	コロナ禍2年の出席の状況を確認させてもらおうと、他と比較しても新型コロナウイルス感染症等に罹患した生徒の数は少ないのではないかと感じた。家庭の健康に対する意識の高さとともに、保健委員会中心となって学校保健委員会等で自分たちの健康に対する問題を取り上げた活動をしているのが影響しているのではないかと考えている。こうした健康に対する意識を向上させ、健康を守る知識を身に付けることは大切だと思っており、こうした取組を継続してほしい。また、いじめの問題に対しても、定期的なアンケートの実施、スクールカウンセラーとの情報共有等、いじめはあるものだという意識を持っての指導は効果的だと思われる。	・生徒のことを大切に考え、すべては生徒の成長(健全育成)のために全職員で生徒情報を共有し、あらゆる場面で先手を打つ生徒指導を目指す。
		⑰いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	A	A	A	いじめの定義、いじめ防止対策推進法について周知徹底し、職員の内包込みのないよう生徒の情報共有を徹底している。また、平時より未然防止指導(特に今年度はコロナによるいじめ、偏見、差別の防止を行っている。		
		⑱子どもの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	A	A	A	三者面談にあたって、適性検査等のデータを活用した。		
VII 生徒の安全確保を図っていますか。	15生徒の安全に対する意識喚起に努めていますか。	⑲前学期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が70%以上である。	A	A	A	進路講演会を実施し、生徒自身に自分の進路を考える機会を提供した。	単なる進路学校ではなく、生徒一人一人が自分の将来像実現のために大学等の進路先を選んでいるということが、バリエーションに富む進路先や卒業生が多岐に活躍している点からもわかる。新型コロナウイルスの5類引き下げを受け、実施できていなかった前期でのインターンシップ活動等を復活させてもらい、基礎期からのキャリア意識の向上に取り組んでほしい。	・キャリア教育については、今後も特別活動部による年間計画およびFEWCにビルト・インする形で実施していきたい。 ・新学習指導要領をふまえたカリキュラム・マネジメントの構築に着手したい。具体的には、大学と連携したアカデミック・インターンシップ等が考えられる。
		⑳後学期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が80%以上である。	A	A	A	文理選択、科目選択、志望校選択等の場面における個別指導を充実させた。		
		㉑進路講演会や進路関連行事を各学年、年2回以上開催する。	A	A	A	生徒の発達段階にあわせ、各学年のニーズに応じた行事を行った。		
VIII 生徒の安全確保を図っていますか。	12保護者や地域等との連携・協力を努めていますか。	㉒子どもがPTAから進路情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	A	A	A	PTA進路学習会を実施し、本校生徒にとって必要な進路情報を発信した。	新学習指導要領実施に伴う共通テストの変更点、志願する生徒が増えていると聞く総合型選抜や推薦入試等に関する正確な情報の提供を今後も心掛けていきたい。	・進路関係の諸行事については、スクラップ&ビルドの考え方を基本として、その精選を継続する。また、進路情報については、各学年の進路環境に応じた最新の情報を、引き続き提供する。
		㉓Webページの必要箇所を月3回以上更新する。	A	A	A	県のDX(デジタルトランスフォーメーション)推進の方針を受け、学年通信や図書だより、保護者への連絡文書等をWebページ上に掲載したり、れんらくアプリを使って配信する取り組みを加速させ、情報の正確かつ速やかな提供に努めた。		
		㉔学校説明会や公開授業、授業参観をそれぞれ年1回以上実施する。	A	A	A	学校説明会は人数を制限して実施し、授業参観は対面と配信を組み合わせて、5月と11月に2回実施し、すべての学年の保護者に必ず1回は来校しての授業参観を提供することができた。効果ある工夫した取り組みを継続していきたい。		
IX 教育のデジタル化に努めていますか。	14ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉕学校と家庭との連絡が緊密に行われていると感じている保護者が80%以上である。	A	A	A	文書だけでなく、昨年度導入した「れんらくアプリ」を積極的に利用し、適切な情報伝達に努めた。	県内各地から生徒が集まっており、学校の所在地域への貢献や交流については難しさもあると思うが、世界的な視野を持つ人材を育てるという観点から見て、群馬県全体を自分のふるさとと思えるような心持を育成してほしい。そうした心持が広がれば、本場の意味での奉仕活動や地域貢献活動ができるのではないかと。	・県教育委員会のDX(デジタルトランスフォーメーション)推進を受け、本校においてもペーパーレス化(デジタル配信)をより推進する。具体的には、Webページに各種行事や学校生活の様子をタイムリーに掲載したり、各学年からの学年通信、図書だより、保健だより、保護者向け各種文書等を「れんらくアプリ」を使って積極的に配信し、学校と保護者等との情報面における齟齬をなくしていく。 ・学校説明会は新型コロナウイルスの5類への引き下げを受け、会場の制限がなくなれば、人数制限のない形で実施する。オープンスクールについてもその重要性を考慮し、学校を開放した上で対面での実施を計画する。ただし、駐車場がない等の問題も考慮し、小学6年生とその保護者を対象として実施する方向とする。
		㉖学校は、生徒・保護者による地域貢献活動を年1回以上行っている。	A	A	A	ここ数年、雨や感染防止のため中止、延期となっていた行事を本年度は計画通りに無事に行うことができた。		
		㉗クロームブックを活用した授業が全ての教科で行われている。	A	A	A	前期、後期を問わず、全ての教科・科目でクロームブックを使用した授業が定着してきている。本年度実施したICTを活用した授業研修が、教員全体の意識を高め、情報交換も活発に行われ、単にICTを形式的に使用するのではなく、いかに探究的・創造的な学習を実現させるために活用するかに焦点を当てた授業改善が進み始めている。		
X 教育のデジタル化に努めていますか。	14ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉘ICTを活用した連絡や会議、行事運営等が全ての分掌で行われている。	A	A	A	ICT機器を使用して各学年や教科が連絡事項や課題提出などに活用している。また、欠席アプリを使用し、仕事軽減や効率化に活用している。	欠席アプリ等の導入で先生方の業務が少しでも軽減されればよいが、ICTを活用するためのスキル向上や準備等が忙しくなり、本来転倒にならないように注意してもらいたいと思う。	・仕事の効率化や軽減のためにICT機器の使用を拡大していく。また、学級通信はアプリを通じて配布しており、今後は多くの配布物などペーパーレス化を進めていく。
		㉙交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	A	A	A	日頃より与えられたかけがえのない命について考え、自他共に命を守るための指導を行なった。また、本校生徒の現状を伝えたり、ヘルメット着用を推奨する指導をした上、交通事故未然防止活動を実施した。		
		㉚交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	A	A	A	資料やデータを見せてもらい、社会問題ともなっている自殺念慮の生徒への対応、アンケートによるいじめの定期的な把握、交通事故の防止、長欠生徒へのカウンセリングの実施等、生徒一人一人をしっかりと把握し、早期に対応しようとする先生方の気持ちが伝わってきた。今後子どもたちの命を大切にすることを指導を継続してほしい。		

16施設・設備の安全管理を徹底していますか。	⑩学校の施設・設備が整備され、安全であると感じている生徒・保護者が80%以上である。	A	A	A	安全点検による大きな問題点はなかった。	安全点検によって指摘された箇所については、予算面での厳しさもあると思うが、早期に改善を図ってもらうことが肝要だろう。	・安全点検を定期的に行い、防災指導や不審者対策なども充実させたい。
------------------------	--	---	---	---	---------------------	--	-----------------------------------